

(電子メール施行)
農技1267号
令和元年9月20日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和元年度病虫害発生予報第5号を發表します。

令和元年度病虫害発生予報 第5号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(穂いもち)	平年並	平年並
	稲こうじ病	平年並	やや少
	トビイロウンカ	やや多	やや多
ダイズ	紫斑病	やや少	少
	立枯性病害	平年並	やや少
	べと病	平年並	やや少
	葉焼病	平年並	やや少
	ウイルス(モザイク)病	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	平年並	やや少
	吸実性カメムシ類	平年並	やや少
野菜共通	ハイマダラノメイガ	やや多	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(9月21日から10月20日までの天候見通し)

令和元年9月19日

大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

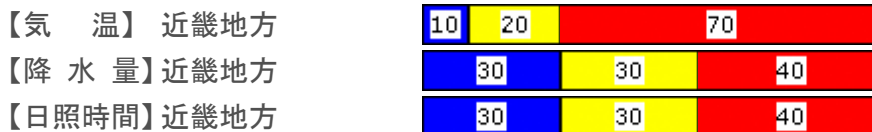
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

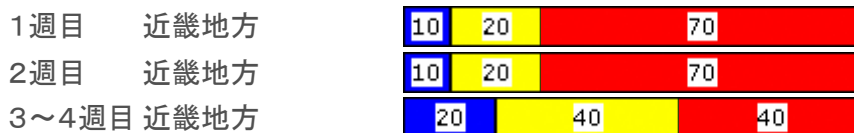
週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月	:	9月21日(土)～10月20日(日)
1週目	:	9月21日(土)～9月27日(金)
2週目	:	9月28日(土)～10月4日(金)
3～4週目	:	10月5日(土)～10月18日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】（穂いもち）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の予察ほ場では穂率0.8%で穂いもちの発病を確認している。現地調査では発病ほ場率2.3%（過去3カ年平均2.3%）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量、日照時間はともに平年並と予想されており、本病の発生を助長する要因は少ない。葉いもちの発生量はやや少なかったことから、穂いもちへの移行は少ないと考えられ、今後も平年並の発生で推移すると予想される。

2 【稲こうじ病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の予察ほ場及び現地調査では発病は確認されていないが、一般ほ場で発病を確認している。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されている。本病は穂の成熟とともに症状が顕著になることから、今後は特に前年発生が確認されたほ場での発病が予想され、平年並の発生が予想される。

3 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯では、8月上旬まで飛来は確認されなかった。その後、南あわじ市で8月3半旬、朝来市で同4半旬に飛来が認められた。9月上旬の加西市の予察ほ場では、払い落とし調査で成・幼虫合計は1頭/10株（平年値0.6頭）の密度であった。病虫害防除員による現地調査においても発生ほ場率は15.2%（前年値8.3%）と広域での発生が認められている。

イ 早期の作型で早い時期に飛び込みを受けたほ場では、局所的ではあるが坪枯れが発生している。また、県南部地域においては、6月下旬の飛び込みとみられるごく一部のほ場で坪枯れの発生が認められている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されている。本種は夏季に発生が少なくても秋季に急激に増える場合があり、既に発生が確認されているほ場においては、坪枯れなどの被害につながる可能性があるので注意する。特に、収穫期が10月以降になる作型・品種では注意が必要である。

- (3) 防除上の留意点

ア 収穫期が10月以降になる「きぬむすめ」「山田錦」「ヒノヒカリ」等の普通期栽培品種では発生状況を確認し、それに応じた対応が必要である。

- イ 粉剤等の使用にあたっては、本種が生息する株元まで十分到達するよう散布する。
- ウ 粒剤を使用する場合は、最低数日間は湛水状態を保つようにする。
- エ 薬剤散布にあたっては、収穫前日数をよく確認する。
- オ 詳細については令和元年度病害虫発生予察防除情報第4号（令和元年度9月20日付け）を参照すること。
- カ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

ダイズ

1 【紫斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
 - ア 9月上旬の予察ほ場では発病は確認されていない。
 - イ 今後の1か月予報によると、後半に気温は平年並あるいは高く、降水量は平年並と予想されており、本病はやや少ない発生で推移すると予想される。

2 【立枯性病害】（茎疫病、黒根腐病）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ア 9月上旬の予察ほ場では発病は確認されていないが、現地調査では発生株率1.3%(前年値1.3%)とやや少ない発生が確認された。
 - イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量、日照時間はともに平年並と予想されており、本病は平年並に発生すると予想される。
- (3) 防除上の留意点
立枯性病害は排水不良が発病を助長する。急激かつ大量の降雨による停滞水が起こらないように排水対策等を実施して、ほ場管理に努める。

3 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ア 9月上旬の予察ほ場では発病は確認されていないが、現地調査では発生ほ場率9.1%(前年値10.0%)と発生は少ないが、一部地域で発病が確認された。
 - イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量、日照時間はともに平年並と予想されており、本病は平年並に発生すると予想される。

4 【葉焼病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ア 9月上旬の予察ほ場では、白ダイズで発病株率4.0%(平年値5.4%)、黒ダイ

ズで発病株率8.0%(平年値8.0%)の発病を確認している。現地調査では発生ほ場率18.8%(前年値33.3%)と一部地域で発生が確認された。

イ 今後の1か月予報によると、後半に気温は平年並あるいは高いと予想されており、季節の進行とともに発病が予想され、平年並に発生すると予想される。

5 【ウイルス(モザイク)病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場では、白ダイズで発病は確認されていないが、黒ダイズで発病株率2.0%(平年値0.5%)とやや多い発病であった。現地調査では黒ダイズで発病株率1.0%(前年値0.6%)とやや少ない発生が確認された。

イ 今後の1か月予報によると、後半に気温は平年並あるいは高いと予想されており、季節の進行とともに今後症状が明瞭になって、平年並に発生すると予想される。

6 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場及び現地調査では、幼虫および白変葉の発生は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されている。本種の増殖に好適な条件が続くと考えられ、今後幼虫または白変葉の発生が予想される。

7 【吸実性カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察ほ場では幼虫1.0頭/10株(平年値2.4頭/10株)の発生が確認された。現地調査では発生ほ場率が25.0%(前年値12.5%)であり、密度は0.5頭/10株とやや少なかった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、カメムシ類の活動が活発になり、着莢期以降に発生が増加すると考えられる。

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】(アブラナ科野菜)

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 誘致植物のクレオメでの調査では、9月3半旬の寄生シュート(花枝)率が17%で、8月に入ってから寄生シュート率が前年及び過去5年平均より高い傾向が続いている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。今後栽培するアブラナ科野菜類で

は被害に注意する。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。

イ 幼虫が生長点を加害するため被害が大きく、被害を確認してからの防除では手遅れとなる。本種の発生が懸念される場合は、定植前後の予防的防除に努める。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：**やや多**

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置されているフェロモントラップでは、例年より早い時期から誘殺数の増加が確認されており、8月1カ月間の合計誘殺数は、加西市で870頭（平年値 746頭）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くため、秋作の野菜類では注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：**やや多**

(2) 予報の根拠

ア 加西市におけるフェロモントラップでは8月1カ月間の成虫誘殺数は合計121頭（平年値86頭）とやや多い発生で推移している。現地ほ場（南あわじ市）では、ネギほ場では幼虫の継続的な発生が確認されており、発生ほ場率は50%を超えている。また、カーネーションも同様に発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。今後、秋野菜の作付にともない、多くの作物において被害が生じると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、生育初期の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)